

『フジモリ式建築入門』

藤森照信 著



日本建築史に続き、ヨーロッパ建築史の本です。

建築は、神と人のため以外に作られたことはない。神の住まいと人の住まいを取り上げれば十分だし、神の住まいとしてはヨーロッパ、人の住まいとしては日本が、歴史をたどるには一番適している、とのこと。

❖ 神の住まいを「ヨーロッパ建築」を舞台に・・・

❖ 人の住まいを「日本の住宅」を舞台に・・・

■ 建築の起源は住まい、住まいの起源は火

火からはじまる → 内部空間の誕生 (旧石器時代末・地母信仰・ラスコー洞窟)

→ 住まいの出現 (新石器時代) → 立柱 (青銅器時代・太陽信仰・立石)



■ヨーロッパ建築(1) 古代～14世紀

青銅器時代 → 4大文明 → ギリシア → ローマ →→→西→ ロマネスク → ゴシック(絶頂)

↓→東→ ビザンチン(絶頂)

- 「4大文明」 王 (エジプト・メソポタミア・インド・中国) … ピラミッド
- 「ギリシア」 人間 (質・3つのオーダー) … パルテノン神殿
- 「ローマ」 法 (アーチ・ドーム・ヴォールト・都市空間・量(煉瓦・コンクリート)・5つのオーダー) … パンテオン
- 「ロマネスク」 バシリカ式 (ヴォールト・石・壁) … ル・トロネ修道院(フランス)、サン・マリア・デル・サント(スペイン)
- 「ビザンチン」 集中式 (ドーム) … ハギア・ソフィア(トルコ)
- 「ゴシック」 上昇 (バットレス・ステンドグラス) … アミアン大聖堂(フランス)

■ヨーロッパ建築(2) 15世紀～ (聖書・自然・人間・世界最古建築哲学書ヴィトヴィウス「建築十書」発見)

ルネサンス(再生)→ マニエリスム(力動感)→ バロック → ロココ

- 「ルネサンス」 ブルネレスキ (1377-1446) … フィレンツェ大聖堂
- アルベルティ (1404-1472) … サン・マリア・ノヴェッラ聖堂正面
- ブラマンテ (1444-1514) … テンピエット
- ダ・ヴィンチ (1452-1519) … モナ・リザ、ヴィトヴィウスの人体図
- 「マニエリスム」 ミケランジェロ (1475-1564) … ダウイデ像・カピトリオ広場・サン・ピエトロ寺院 (絶頂)
- パラディオ (1508-1580) … ヴィラ・ロトンダ

■ヨーロッパ建築(3) 18世紀～ (フランス革命・産業革命)

新古典主義(ル・ルネサンス)→ 歴史主義 → アール・ヌーボー → モダニズム～1945

■日本の住宅

火(炉)→→→ 竪穴式 →→→→→ 茶室(草) →→→ 数寄屋(行)

↓→ 高床式 → 寝殿造 → 書院造(真)→↑

茶室は建築の原点。利休の茶室は火と土。火の周りに人が集まってひとつの空間が生れ空間をあり合わせの材料で包んだ時、人類は住まいを発見した。真→草→行。



『西洋建築史図集』 日本建築学会 編

上記本と共に西洋建築史が概観できる。古代から近世まで、多数の図版と解説がある。

(黒野晶大)

